昭和 43 年度
（1968）

厳冬期赤沢山東南尾根から槍ケ岳・燕岳

昭和 43（1968）年 12 月 24 日～ 1 月 12 日

今回の冬山は悪天候が続き、稜線上では 4 日間も沈殿を強いられた。その間、ラジオのニュースを通じて各地で例年になく多くの遭難騒ぎが起こっていることを知ったが、我々は大きな事故もなく無事下山できたことを素直に喜びたい。しかし、合宿全体を振り返って見ると、いろいろな点で反省がある。

まず、合宿の実施計画段階でメンバーの確定がなされず、デポを多く上げ過ぎた等の喰い違いが出て来た。また､西岳までのセミポーラではエッセンの荷上げ等各係の連絡が不十分であったことが指摘される。それに関しては別々になっていたエッセンとレーション両方の係を一緒にして、両者間に連携を持たせた方が良かったと思われるが、エッセンの荷上げがうまく出来なかった最大の原因はズクがなかったからである。

入山後も二年生以上の一年生に対する指導性の欠如、三年生以上の協調性、各係の進行上のミス等が目立った。各係においても各個人においても入山に対する心構えが十分でなかったのではないか。各係でその責任を果たし、係の上級生たる態度を持つのに時間が掛かったこと、各個人をとってみても個人装備の不備や健康に対する心構え等、少し山を甘く見過ぎているのではないか。

我が部は近来、部の形態、部の動かし方等をよく話し合っているが、山に対する昔ながらの基本態度をもう一度考え直さなければならないのではなかろうか｡これからは分散形式の山行になっていくと思うが、その点につき今回いろいろの反省が出た。それらの反省が今回のような合宿山行であったためにメンバーが十分に山行意欲を持てなかったために出てきたものであったのか、または分散形式をとったならば山行意欲が発揮されてもっと充実したことが出来たのかをよく考えてみる必要があると思う。合宿を意欲的に進めるのは立案者等が中心になるのは当然だが、他のメンバーも合宿の成功に向けてより責任ある参加者意識を持ってほしいものである。

価値ある山行にするには、合宿がただの訓練だけのものであったならば、僅かだけの成果しか得られないだろう。合宿の目的は大切であるが､その目的は山登りが技術的に上手になることだけではないと思う。充実感がメンバーに返ってこないのを無くして、合宿を持つ意義を見出すことは困難だと思われる。

CL　武藤　一郎

参加メンバー

CL 武藤一郎　扇能　清　寺沢（御子柴）三男　山下泰弘　米倉幸夫　井関芳郎　笠原敬一
生原　寛　栗田昭夫
装備係　山下泰弘　笠原敬一　生原　寛
エッセン係　井関芳郎　栗田昭夫
レーション係　米倉幸夫
医療係　笠原敬一　生原　寛
気象係　笠原敬一　生原　寛

●槍ヶ岳を背景にご満悦のムサイ連中
（後列左から米倉・扇能・山下・笠原）
（前列左から井関・武藤・生原）

行動記録

12 月 24 日～ 26 日

先発隊：寺沢（L）、笠原

24 日　松本発、沢渡、上高地を経て明神まで 25 日　明神発、二の俣を経て B.C 予定地まで 26 日　B.C	

12 月 26 日

本隊：武藤（L）、扇能、山下、米倉、栗田

4：45	松本部室	○天候は午前中は曇り、昼頃より小雪、14 時頃より雪本降り。天気図は本州東岸沿いに寒冷前線。マイクロバスで入山、中の湯の積雪 35cm、ザックの重さは平均 35kg。 ○木村小屋に計画書を提出、昼食。明神の「山のひだや」で W.V の先輩、小宮山氏を訪ねる。 ○この日入山予定の井関が急な用事で 1 日遅れる。釜トンネルの中にツララが下がっており、気温が高かったので危険であった。
7：00 ～ 7：25	中の湯	
8：20 ～ 8：35	大正池	
9：10 ～ 9：45	上高地（木村小屋）	
10：35 ～ 10：50	1 本	
11：15 ～ 12：15	山のひだや	
13：25 ～ 13：35	徳沢	
14：25	横尾手前　設営	

12 月 27 日

本隊：武藤（L）、扇能、山下、米倉、笠原、生原、栗田

先発隊：寺沢は下山、笠原は本隊に合流

他に井関が入山

4：30	起床	○天候は早朝うす曇で横尾付近は零下 5 度、次第に回復し正午頃には快晴、午後は晴れ。 ○昨日のテン場を出て 20 分程たったところで、B.C から下りて来た寺沢、笠原に会う。寺沢は下山、笠原は本隊に合流。遅れて入山した井関は明神泊。 ○ B.C 予定地までのラッセルは荷が重いために苦しかった。
7：30	出発	
8：20 ～ 8：35	横尾を少し通過したところ	
9：25：～ 9：50	槍見平（昼食）	
10：55	B.C 予定地着	

12：10 ～ 14：00	赤沢山東南尾根のラッセル	○ B.C 予定地に着いてからは山下、笠原で先行ラッセル隊を送り、後、武藤、扇能、米倉、生原、栗田で再びラッセル。同時にエッセン、ザイル 40ml 本、クレモナ 30ml 本、シュリンゲ 4 本をデポ。
15：35	B.C 着	

12 月 27 日

ラッセル隊：山下（L）、笠原

11：25	B.C 発	○ブッシュはあまりないが急なラッセルにしごかれる。 ○信大の赤旗（秋の偵察時に付けたもの）は良いルートとならず、白稜会の赤旗を目標にした。
12：00 ～ 12：25	トランシーバー交信	
13：00 ～ 13：20	2200m 地点付近でトランシーバー交信	
14：05 ～ 14：40	2300m 地点付近から引き返す	
15：35	B.C 着	

12 月 28 日

本隊：武藤（L）、扇能、米倉、生原、栗田

C1 隊：山下（L）、笠原

7：40	出発	○天気は晴れだが、気圧の谷が日本を通過した。日本の上空では時速 200km の西風が吹き抜けている。 ○デポ地点まで快調に到着。デポのうちザイルなどを持ってラッセル終了点まで行く。 ○ 1 年生のラッセル練習。途中から吹雪になり冷えてくる。 ○ C1 予定地に着いてから米倉、笠原がテント地を見に行く。後、山下、笠原がデポ回収に下り、他の者は設営。ラジウスを B.C から C1 に上げるのを忘れたことに気付き、笠原が B.C へ下る。 ○ C1 建設を終わった扇能、生原、栗田は B.C に下りた。武藤、米倉は山下を迎えに行き、山下の荷を受け取って C1 に上げ、後 B.C へ下る。山下は笠原を迎えに下り合流して C1 に上がった。井関が B.C に到着。
8：30 ～ 8：40	1 本	
9：20 ～ 9：30	デポ地点	
9：40	ラッセル終了点	
12：25	C1 予定地　設営	
15：25	C1 発	
16：15	B.C 着	

12 月 29 日

前進隊：山下（L）、笠原

7：25	C1 発	○寒くて朝早くよりラジウスを焚く。2 名の先行パーティーがいたので後から行く。赤沢山手前の登りで 30m フィックスする。赤沢山では天気がよく景色が良かった。絹層雲。 ○デポ地を決め下りのフィックスを始める。この頃より風が強くなり、フィックスが思うように捗らない。フィックス地点はやせた岩まじりの急な下りで樺を支点にした。クラストしておりアイゼンがよく効いた。コルまでフィックスして引き返す。ピークは風が強いので風のあまり当らないところで本隊を待つ。 ○ C1 から C2 への荷上げ表:副食アタック用、主食アタック用、ザイル 1、フィックス用クレモナ 1、ハンマー 1、ハーケン縦 2 横 2 共用 2 アイス 2、ポールフィックス使用シュリンゲ 11
8：10 ～ 8：25	1 本	
8：55 ～ 9：30	フィックス 30m 工作	
10：15 ～ 10：30	赤沢山	
10：40 ～ 10：50	デポ地点	
11：05 ～ 13：00	下りフィックス工作	
13：40	本隊と合流	

12 月 29 日

本隊：武藤（L)、扇能、米倉、井関、生原、栗田

4：20	起床、エッセン	○天気は朝快晴、午後は晴れ。赤沢山からコルの間はかなりの強風。大陸の高気圧は 1060 ミリバールと北に寄って発達、この後 10 日近く続く強い冬型の始まり。
7：20	B.C 出発	○昨夜ポリタンに水を作っておいたためかエッセンには昨日ほど時間が掛からなかった。
8：30 ～ 8：40	1 本（零下 8 度）	○ C1 まで昨日のトレースをたどり 3 ピッチで着く。
9：50 ～ 10：15	1 本、昼食	○直ちに C2 予定地に向かう。荷は 1 人 15kg 程で C2 予定地までトレースがありフィックスもあったので快調。
11：00 ～ 12：00	C1	○フィックス地点を過ぎて時折猛烈な地吹雪に見舞われる。稜線に出てからは風が激しく吹き飛ばされそうであった。
13：00 ～ 13：20	フィックス上部（零下 9 度）	○赤沢山直下でフィックスに行った山下、笠原パーティーに出会う。帰りは共に下りた。
14：00 ～ 14：10	C2 デポ	○ C1 にて 5 年程前の放置デポを頂く。肉の缶詰がガバチョと入っていた。さっそく夕食のおかずと相成った次第、まだゲリラ効果は現れてないジ！
15：00	C1 着	○ B.C から C1 の荷上げ：BC の残り荷物全部（エッセン、テント、ナイロンフィックス、ガチャ類、ラジウス用石油 15 リットル等)。
		○ C1 から C2 の荷上げ：C2 デポ用の石油 18 リットル、C2 以降のエッセン（一斗缶 5 個、ダンボール 2 個等)。

●フィックスロープを回収中の工作隊

12 月 30 日

先発隊：武藤（L)、井関

後発隊：米倉（L)、扇能、山下、笠原、生原、栗田

C2 から C1 へ下る：米倉（L)、扇能、生原、栗田

8：05　C1 発 9：10　赤沢山デポ地点 12：30 ～ 13：30　西岳小屋 14：50　C1 着	○天気は朝快晴、9：30 から 11：00 は地吹雪、後風雪。シベリア高気圧はさらに発達して 1068mb。 ○武藤、井関が C1 から赤沢山・西岳間のフィックスのため先発。後発隊は C1 から C2 に荷上げ。途中赤沢山に荷を一部デポした。 ○ C1 からは緩い登り。ブッシュに足を取られないように注意して歩く。右手、二の俣側が比較的切れており、尾根が左に曲がり赤沢山に向かって進むようになる辺りに小さいが雪庇が出来ている。 ○後発隊は急登を終わった辺りで先発隊に追いついた。先発隊は重荷でのラッセルでかなりヨタっており、全員、目出帽、ヤッケ、ミトンなどで完全武装した後、井関と米倉が交替して武藤、米倉で西岳の登りのルート工作に出発。残り 6 人は赤沢山のデポ地点でツェルトを被り待機。 ○赤沢山から西岳へリポートの間を完全にフィックスし終わったので待機していた 6 人が西岳に向かう。西岳への登りはクマザサの急斜面で、雪が不安定で登るのに難渋したが樺が良いフィックスの支点になっている。 ○武藤、山下、井関、笠原は西岳小屋の横に C2 を設営した。他は C1 に戻った。

12 月 31 日

C1 隊：米倉（L)、扇能、生原、栗田

C2 隊：武藤（L)、山下、井関、笠原

5：00　起床、朝食の後待機。 9：30　沈殿決定	○天気は地吹雪、のち風雪。C1 の気温は午前 7 時に零下 11 度、20 時は零下 15 度。 ○ C1 隊、C2 隊ともに沈殿。

1 月 1 日

C1 隊、C2 隊（12 月 31 日と同じ）

C1 での日中の気温は零下 11 ～ 12.5 度。	○風雪。シベリア高気圧は 1080mb を記録。 ○ C1 隊、C2 隊ともに沈殿。

1月2日

C1隊：米倉（L）、扇能、生原、栗田

5：30　起床 8：30　C1撤収、出発 12：30　西岳着 （C1での日中の気温は午前5時は零下18度、午前9時は零下14度）	○天気は風雪。相変わらず冬型の気圧配置。 ○食糧はまだC1用に2日分残っていたが沈殿に少々飽きたので出発することにした。赤沢山から先はかなり強く吹いていることが予想されたが、完全にフィックスされているし心配ない。 ○ C2隊は沈殿。 ○全行程を扇能がトップで激しい西風によろけながら西岳着。テントが見えないので一瞬不思議に思ったが、冬期小屋の扉から見覚えのある顔が現れた。 ○テントを設営して、8人が4日ぶりに一緒に寝ることになった。8人用のテントに8人寝るとやっぱり暖かい。両端の2人はかわいそうだが、中の6人はスリーシーズンのシュラフでも困らない。

1月3日

デポ回収隊：武藤（L）、山下、井関、笠原

8：30　C2出発 9：05　赤沢山デポ地点 9：50　C2着 （C2の気温は午前8：30零下22度、12時零下19度、16時零下20度）	○ガス、西の風、小雪。冬型だが華中の高気圧が移動性高気圧になりそうな気配あり。 ○7時に出発の予定であったが、天気思わしくなく8時半出発。 ○フィックス地点は思ったより雪が積もってなく締まっていた。岩峰を巻くところと赤沢山の登りの途中にある吹き溜まりがちょっと厭な感じがした。 ○赤沢山のデポは無事であった。天気はそれ程激しくはなかったが、気温が相当下がって厳しかった。

1月3日

C2残留隊：米倉（L）、扇能、生原、栗田

8：30～9：00 テント補強、防風ブロック積み その後、雪洞ほり（居住区直径2.5m）	○テント近くのクラストした雪を選び、スコップでブロックを掘り出す。テントの3分の2くらいの高さに積んで防風壁を建設した。 ○午後昼食の後、雑煮そして玉子焼、豆、きんぴらごぼう、カマボコ等を美味しく食べた。正月3日目にしてやっと元旦気分が出た。

1月4日、5日、6日、7日

沈殿	○天気は風雪。気圧配置は相変わらず冬型。

1月8日

アタック隊：武藤（L）、山下、井関、笠原

10：00　西岳テント発 11：45　水俣乗越 12：50　第1の鎖場	○前日の天気図から今日も行動できないと思っていたが、朝起きてみると明るい。快晴だ！風は強いが晴れている。少し遅いが7時にエッセンをとりアタックの準備を8時半までにして9時15分の天気図で判断して

13：50	第２の鎖場	出発することにした。天気図では上海辺りに高気圧が出来、まだ２日程持ちそうである。これを逃したらアタックは出来ない。１ビバークでアタックすることにする。
15：00 ～ 15：20	大槍ヒュッテの上で昼食	○山下トップ。西岳の下りは樺に掴まりながらの下りだ。所々ルンゼをトラバースするところがある。この辺りは雪が飛ばされているのか、トラバースするところでも雪は膝まで位だった。
16：00	肩の小屋	○水俣乗越の西岳寄りのコルくらいから複雑に雪庇ができている。大体は槍沢側へ出ているのだが、風が巻くのか反対にできているところもある。また雪庇の反対側は急な斜面で表層雪崩が起こりそうである。天気は水俣乗越辺りから悪くなりだす。吹雪の前のトレースは所々見えているが大槍ヒュッテ下の第２の鎖場あたりまではラッセルを強いられた。第１の鎖場ではコルに下りることにする。ザイルを出して樺の間を縫って下りる。下の方は赤茶けた脆い岩が出ている。第２の鎖場は梯子が出ており楽であった。この辺りから雪が締まってきてアイゼンがよく効く。 ○大槍ヒュッテ上辺りで腹が減っていることに気がつき、風が強いが昼食をとる。ブリザードで顔が痛い。目出帽を出す。風が強くてブリザードで視界が遮られる。槍ケ岳の岩肌が時々ガスの切れ間から不気味に黒ずんで見える。槍の基部のトラバースは雪も締まっていたが、傾斜が急のため離れて一人ずつ通った。槍の肩は吹き抜ける風が強く、そのおかげで槍の基部の雪が安定しているのだろう。槍ケ岳山荘の冬期小屋にはこれから槍沢を下山する人達がいた。我々はお茶を飲んだりしていたが、彼等の出た後、例により残り物を漁る。我々の想像もつかないものを捨てていく人があるものだ。アルファ米、羊羹、チーズ、クッキー、ラーメン等、ガバチョとある。ウッシッシ。ラジオで北尾根の丹沢山岳会のデポ盗難が放送されていたが、我々は誇りある山屋である、他人のデポに手をつけるようなことは断じてしないが、捨てられた資源の有効利用はするのである。 ○トランシーバーの交信をするとやっとこさで交信できた。冬期小屋の中で一斗缶でコタツを作ってみたが寒い。ラジウスを吹かして当たっていても、なかなか眠る気にならない。だがなるべく長く寝た方がいいので、着るものを着てツェルトを被り眠るが寒さのために何度も眼を覚ます。夜中にラジウスを焚いてお茶を沸かす。それからまた眠る。武藤の歯が痛むので笠原に薬をもらう。

１月９日

アタック隊：武藤（L）、山下、井関、笠原

8：40	冬期小屋発	○今日も快晴である。相変わらず肩は風の吹き抜けが強い。武藤、山下でザイルを２本持ち槍ケ岳頂上を目指す。トレースもはっきりしており、梯子も出ている。千丈沢側の梯子はものすごい風である。登りはザイルを使わなかった。頂上は風は大して強くない。写真を撮ろうとしたが、カメラが寒さのためか動かない。30分程ピークにいて下る。頂上真下で慎重を期してザイルをダブルにしてアップザイレンで下りる。あとはザイルを使わず。千丈沢側の梯子の下はすごい風である。槍の肩の小屋で荷物を持ち戻る。
9：00 ～ 9：35	槍ケ岳頂上	
10：05	冬期小屋発	
10：10	槍の基部トラバースを過ぎたところ	
11：20 ～ 11：35	第２の鎖場	
12：50 ～ 13：25	水俣乗越の西岳寄りのピーク	
14：30	西岳テント着	○いい天気である。後立山連峰の方を捜索しているのか、飛行機が盛ん

	に飛んでいる。暖かなので雪庇に注意しながら進む。1ヶ所山下がピッケルを刺したらしき所から3～4メートル程の長さで雪庇が崩れ槍沢の方へ落ちていった。片方は雪庇、片方は急な斜面なので、なるべくギリギリのところを通る。往路のトレースはほとんど消えている。1ヶ所、一人ずつが離れて通ったが雪庇の根元を踏んだところがあった。そこは大きく雪庇が張り出しているところで、張り出したところは避けたが根元に掛かってしまった。 ○水俣乗越からは風が強くなり、西岳の登りは雪煙が上がっている。西岳の登りは風がきつく、睡眠不足か沈殿の疲れかゼイゼイいいながら登りテントに帰着する。

1月8日

赤岩岳隊：米倉（L）、扇能、生原、栗田

11：05	西岳テント場発	○暗い内は風も強く赤岩岳アタックは控えていたが、徐々に太陽を見ることができ、風も弱まった。行動中の天候は昼頃より、槍ケ岳方面よりガスがかかって来て、風も強まったがさほどでもなかった。 ○赤岩岳は西岳から1ピッチで行くことが出来、快調だった。風も強くなくスムーズに行った。 ○テントに戻ってから昼食の残りを食う。ついでに紅茶も作る。あとはエッセン作り、天気図書き。
11：50	赤岩岳	
11：50～12：05	米倉、扇能が赤岩岳の先のフィックス地点偵察	
13：00	赤岩岳発	
13：10	赤岩岳から西岳寄りのフィックス地点	
13：55	西岳テント場着	

1月9日

ルート工作隊：米倉（L）、扇能（赤沢山フィックス回収、赤岩岳フィックス設置）

テント・キーパー：生原、栗田

8：20	米倉、扇能テント発 赤沢山フィックス回収	○昨日見ておいた所にフィックス・ロープ4本150mを固定する。コルを吹き抜ける風は激しく、吹き飛ばされそうになる（米倉は軽い凍傷にかかった）。 ○フィックス地点は次の4ヶ所。①赤岩岳手前の岩峰の登り30m。②③赤岩岳の東方にある岩峰2つ。稜線上を行かねばならないのでかなりキビシイ。南斜面は全部新雪雪崩が起こっている。足元から直ぐ下が雪崩の跡である。④雪稜の下り、足元が不安定なので、おまけのつもりでフィックスした。 ○フィックスは10m平均に樺か這松にシュリンゲで固定した。小さくトラバースすれば楽だが、昨年末から降り続いた雪が雪庇を残して直ぐ下から雪崩れているので、忠実に稜線を行かねばならない。
9：40	テント着、槍ケ岳アタック隊とトランシーバー交信、昼食	
10：40	テント発 赤岩岳フィックス工作	
13：20	テント着	

1月10日

全員

5：00	起床	○天気が持つのも今日辺りまでと予想していた通り、朝はいい天気だった。午後は地吹雪で強い西風。
8：10	西岳テント場発	

9：20 ～ 9：35	赤岩岳	○テント撤収は、雪を何度も踏み固めたりしたためか張り綱を掘り出すのに時間を食う。前日に米倉、扇能が赤岩岳付近のフィックス工作をした。今日は時間を節約するために米倉(L)、井関がフィックス回収隊となり先に出発する。
11：25 ～ 11：55	大天井ヒュッテの前	○はじめから一年生の歩き方をうるさく注意する。赤岩岳付近は二の俣沢側がほとんど稜線直下からきれいに表層雪崩の跡がある。赤岩岳辺りから曇りになる。フィックス箇所を過ぎた辺りからは所々に天井沢側の夏道が見えたところがあり夏道を使う。大天井岳の登りでは、天井沢側の巻き道は途中に沢が何本もあるため頂上へダイレクトに登ることにする。このころから北アルプスに次第に雲が垂れ始めた。
12：45 ～ 13：00	牛首岳	
14：20 ～ 14：35	大天井岳	
15：25 ～ 15：35	吊岩の手前	○この登りでは二年生、なかでも井関が疲れている様子だった。頂上から少し切通し岩の方へ下りたところで昼食。この頃から風が強くブリザードになる。ここから一年生の間に上級生を入れて出発する。この大天井岳の下りで栗田がアイゼンのツァッケをオーバーシューズに引っ掛けてさかさまになって２～３メートル落ちたが、トップの笠原と岩の間に引っ掛かり止った。この下りをトラバースし、切通し岩のコル状のところへ出る。ここは鎖場であるがステップを作って通す。ここで目出帽をつける。ここら辺りは夏道が割合出ている。
17：00	吊岩	
17：30	テント場	○今日ははじめ燕山荘まで行く予定であったが、全員疲れている様子。時間的にもテントを張ることにして、大天井岳寄りのなだらかなピークから中房温泉側に下りている大きな尾根まで少し戻らせて、テント設営場所とした。

1 月 11 日

全員

8：55	テント場発	○晴れてはいないが割合穏やかな天気である。
9：45	急な登りの上	○雪がとばされたところを大体夏道どおりに歩く。蛙岩の手前で岩が出ているところの下りはフィックス 10m を使って中房側をまく。凍った蛙岩を通り抜けると、やがて燕山荘に着いた。燕山荘の冬期小屋はすこぶる立派なものであった。
10：30	蛙岩の手前フィックス	
12：25	燕山荘	
12：45 ～ 13：05	展望台	○ケーブルの下を下ると展望台に着く。ここでいつもの癖でエッセンの食い残しがあったので昼食とする。アイゼンをワッパに付け替えて中房温泉まで下る。中房温泉で、ホテルに温泉に入れさせてくれるようにお願いに行ったら、なんとホテルの風呂を使わせていただける御厚意に甘えた。感謝感激。その後、お茶を戴きしばし話が弾んだ後、テントに帰る。ホテルの皆さんにはご厄介になったことを、ここでもう一度感謝したい。エッセンは上田の余りもののモチなどを美味しくいただいた。
14：45 ～ 15：05	中房温泉	
15：08	テント場	

1 月 12 日

全員

7：35	中房温泉テント場発	○雪の降る中を自動車道路を歩く。
8：40	登り坂の上	○宮城に着いたのはバスが出た直ぐ後であった。追分駅まで 4 キロなので歩き出す。追分駅は畑や野原が続いているところを通り、だんだん人家が多くなり始めたところを過ぎて川を渡ると、そこが追分駅であった。小さな町の駅である。
9：30 ～ 9：40	1 本	
10：30 ～ 10：50	黒川（昼食）	
11：20 ～ 11：35	宮城	
12：50	追分	○ここから大糸線に乗って松本に帰った。
15：00	松本部室	

●大天井岳付近からの槍ケ岳と東鎌尾根